

戦略会議・会議録概要

- I、日 時 平成27年9月30日(水) 午前9時30分～10時30分
- II、場 所 市長応接室
- III、出席者 市長、副市長、教育長、政策推進部長、総務部長、街づくり部長
戦略室長、企画経営課長
- IV、概 要 大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について
大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

V、内 容

大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について
大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

(1) 主な意見

【副市長】

- 本日は大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンおよび総合戦略について審議する。まず、市長よりご挨拶いただく。

【市長】

- 一昨日、スーパームーンということで、月と地球の距離が近づいたり、遠ざかったりする。行政も市民から遠ざかることなく、距離感を近づけて、その存在がはっきりと意識していただけるような「スーパーシティ」のような行政運営を他市に先駆けて、他市以上に進めていかねばならない。その素材としての人口ビジョン、総合戦略について、みなさんで議論していただくという意識をもって進めていただきたい。

【副市長】

- 策定に向けては、これまで4回の推進本部および2回の懇談会を開催したほか、各部等とも議論を重ねてきた。また、パブリックコメントも行っている。
- 本日は、これらの意見等を踏まえ、最終案をお示しし、審議を行い、決定していきたい。それでは戦略室長より説明する。

【戦略室長】

- それでは、個別の内容に入る前に、これまでの議論を通じて人口ビジョンおよび総合戦略の位置づけについて確認させていただく。人口ビジョン・総合戦略は、

総合計画とは異なり、総花的な計画ではなく、「まち・ひと・しごと」に絞った内容としている。特に総合戦略は、2019年までの5年間の具体的な取組みを記載しており、政策の視点として「大阪市にないもので大東が既に有しているものを磨く」「市民や民間を主役に据えること」の2つを掲げ、この方針に合致するかどうかを照らし合わせながら今まで事業を組み立ててきた。

- 前回の第4回推進本部の後、外部有識者等による懇談会を開催し、ご意見を頂戴した。その後、庁内各部等への照会、およびパブリックコメントを行った。パブリックコメントは、3人の方から計5件のご意見をいただいた。これらを参考に、最終案をお示しし、本日決定いただくものである。
- それでは、これまで寄せられた主な意見および反映状況についてご説明する。

【戦略室長】

〈資料に基づき説明〉

【副市長】

- ここまでで、何かご意見があればお願いします。

【政策推進部長】

- パブリックコメントあるいは懇談会で、人口13万人の設定について議論が出たが、我々としてはこの5年間、どういう方向で進めていくのかが、ポイントと考える。行政としては13万人という目標を持った上で、様々な施策を重点的に実施していくことで、大東の将来の基礎固めができると思う。必ずしもこの13万人をベースにしたハード整備をめがけていくということではない。13万人に向かって、様々な手立てを検討しようという意図であり、最終的には、この13万人という設定が妥当であると考えている。

【戦略室長】

- 大東市が自治体として適正な規模であるということは、人口だけでなく18.27㎡という市域、コンパクトで持続可能な自治体の最小単位で望ましい規模であると思う。そういった意味で13万人を維持するということは、望ましいことであると思う。この5年間で13万に到達して、それを維持し続けることで大東スタイルを確立するというストーリーにしている。

【教育長】

- パブリックコメントの中で、市民会議の協議会の設置と関連して、校区編成につ

いての意見があったが、教育委員会としては小中一貫校の実現を見据えた上で、その中で校区の再編についても検討していければと考えている。

- 従来、校区を検討する場合は、教育委員会だけで検討してきた。しかし、総合戦略においては、まちづくりなどの幅広い視点で考えていかないといけないと考えている。

【政策推進部長】

- 総合戦略の各事業については、詳細決定したものばかり記載しているのではなく、これから議論していった詳細を固めていくもの、現在進行形のものもたくさんある。今の住民自治の議論についても、まずは住民自治を進めていくという方向性、また、市民会議については、従前から概ね中学校区ごとの取組を進めるとしていたため、総合戦略には、そこまでを記載している。

【市長】

- このことを受けて、色々な印象を持たれると思う。そこで、各所管から丁寧な説明をして、信頼を深めていけるような、打ち出しの仕方にしていきたい。

【総務部長】

- 総合戦略策定後の流れ、進め方について、教えていただきたい。

【戦略室長】

- 今後事業を進めるにあたっての推進体制としては、10月1日付で設置する地方創生局が中心となって進行管理と事業の推進に取り組んでいく。
- 総合戦略の実施に向けては、府内で一番に総合戦略を策定したというアドバンテージを常に保っていきたい。

【政策推進部長】

- 地方創生局が10月1日付で設置される。総合戦略についての進行管理と事業を推進していく立場と考えている。財源については、政策推進部局と調整していく。

【教育長】

- 5年間、この総合戦略に沿って、事業を実施していくということであるが、今後社会情勢の大きな変化等により、事業の見直しや新たな事業を盛り込む必要性が生じた場合はどのようにするのか。
- また、事業や数値目標・KPIの進捗状況をチェックすると聞いているが、どのよう

な体制、頻度で行う予定をしているか。

【戦略室長】

- 人口ビジョンおよび総合戦略は、社会経済情勢の変化や制度の変革、取組みの効果や進捗などに合わせ、柔軟に見直しを図ることを前提にしている。
- 特に、総合戦略は、数値目標を定めており、国からは進捗を検証することが求められている。そこで、外部有識者等を含む検証組織を設立し、定期的に進捗状況を検証し、適宜見直しを図っていきたい。

【街づくり部長】

- 政策基本方針の一つである官民連携については、どのように進めていく考えか。
- 総合戦略ができたあと、色々な方に知っていただく必要がある。インパクトのある概要版を作成してはどうか。

【戦略室長】

- 総合戦略にも記載しているが、新庁舎問題や市営住宅更新関連事業など大規模事業の実施にあたっては、官民連携手法の導入を前提として検討していく。
- また事業化に向けては、企画立案の段階から民間に参加してもらうための対話型意見聴取(サウンディング調査)を実施するなど、民間のノウハウ等が最大限に発揮される環境を整えていきたい。
- ターゲットが子育て世代ということであるので、今後の見せ方、周知の方法については工夫していくことが必要と考えている。

【企画経営課長】

- 今後 13 万人を目指していく中で、総合戦略、マニフェストロードマップ、総合計画、という3つが存在することになる。総合計画については今年度末に改訂予定であるが、そこにはこの総合戦略、マニフェストロードマップの内容を反映させたものにしていきたい。総合計画の実施計画についても5年間という期間が合致するので、関係機関で連携して進めていきたい。
- 大阪府内で一番に策定されるので、対外的にアピールする方法は考えているか。

【戦略室長】

- 戦略会議で決定されれば、来週10月5日に記者会見の予定である。広報戦略として重点的に打ち出していきたいと考えている。

【市長】

- よい意見がたくさん出た。わかりやすくPRするにはダイジェスト版が必要。決定されれば、すぐに取り組んでいただきたい。

【副市長】

- 他に意見がなければ、この案を決定してよいか。
《一同異議なし》

【市長】

- これで決定をいただいた。今後の新たなしっかりとした目標、方向ができあがった。これに全職員が高い意識を持って、取り組んでいく「チーム大東」の組織構成がある。これはそれぞれの所属部長の大きなリーダーシップに関わる。まず我々がしっかりと認識し、進む意欲を持たないと、市民への伝播は困難。自覚をもって取り組んでいただきたい。

(2) 決定事項

- 大東市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンおよび大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、案のとおり決定する。

(以上)